

令和5年度 第2回千代田区子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和5年12月27日（水） 午後6時30分～午後7時14分
場 所 オンライン開催（Teams使用）

議事日程

- 1 開会
- 2 議事
 - ・第3期千代田区子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について
- 3 その他
- 4 閉会

出席委員（12名）

恵泉女学園大学学長	大日向 雅美
（株）保育システム研究所代表	吉田 正幸
東京商工会議所千代田支部情報産業分科会副分科会長	舟橋 千鶴子
連合千代田地区協議会幹事	戸塚 寛之
主任児童委員	水野 智佳子
ファミリー・サポート・センター 地域支援課長	廣木 朋子
子ども発達センター「さくらキッズ」サービス提供責任者	山崎 佳生子
区民（公募委員）	松本 咲絵
区民（公募委員）	嶋 聡美
子ども部長	亀割 岳彦
子ども支援課長	湯浅 誠
児童・家庭支援センター所長	吉田 啓司

事務局（1名）

子育て推進課長	小阿瀬 広道
---------	--------

欠席委員（3名）

青少年委員	松井 千恵子
保育園保護者	松井 正寛
健康推進課長	後藤 真理子

子育て推進課長	定刻となりましたので、ただいまより、令和5年度第2回千代田区子ども・子育て会議を開催いたしたいと思います。 事務局を務めております、子ども部子育て推進課長の小阿瀬と申します。よろしくお願いいたします。 今回は、1月に行う予定の区民ニーズ調査についてのご意見を頂きたいというところでございまして、年末の大変お忙しい時期ではございますけれども、委員の皆さんに貴重なお時間を頂いているというところでございます。ご出席賜りまして、ありがとうございます。 それでは、早速ではございますけれども、会の進行を大日向先生にお願いしたいと思います。大日向先生、よろしくお願いいたします。
大日向会長	はい。お忙しい中、今日はありがとうございます。時間も限られておりますので、早速、会議に入りたいと思います。まず、事務局から事務連絡をお願いいたします。
子育て推進課長	はい。事務局でございます。それでは、事務連絡、連絡事項を申し上げます。 この会議の目的でございますけれども、有識者の方、事業主・労働者代表の方、子育て当事者の方、子ども・子育て支援事業に従事する方などが子育て支援に関する政策プロセス参画、関与することができる仕組みとして設置をしている会議でございます。 この会議は、千代田区子ども・子育て会議条例の規定に基づきまして、原則、公開となっております。 そのためを作成させていただき、区のホームページに公開をする予定でございます。議事録の作成に当たりましては、会議の内容を録音させていただきまして、公表させていただきますので、ご了承ください。 個人情報に関わる部分があった場合は、原則、原稿から削除させていただきます。 本日、松井千恵子委員、松井正寛委員、後藤真理子委員の3名から欠席のご連絡を頂いてございますが、委員の過半数の方にご出席を頂いておりますので、本日の会議は、条例第7条第2項に基づきまして、有効な開催であることを確認をさせていただければと思います。 また、本日、傍聴の方はいらっしゃらないという状況でございます。 事務局、または会長さんから発言をお願いした後に、マイクボタンがございますので、こちらを押していただきまして、発言をお願いできればと思います。 ご説明は以上でございます。
大日向会長	はい。ありがとうございました。 それでは、議事に入る前に、資料確認を事務局からお願いいたします。
子育て推進課長	はい。事務局でございます。 それでは、資料の確認をさせていただきたいと思います。

大日向会長

本日お配りしている資料は2点でございます。会議の次第と、第3期千代田区子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査票について、ご用意をさせていただいております。

資料につきましては、以上でございます。

はい。ありがとうございました。

それでは、ここから議事に入っていきたいと思います。本日の議事は、千代田区子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査でございます。事務局からまずご説明を頂きました後、委員の皆様からご意見、ご質問を頂戴したいと思います。

それでは、小阿瀬課長、お願いいたします。

子育て推進課長

はい。

それでは、第3期の千代田区子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査票についてご説明をさせていただきます。

まず、この調査に至るまでの経緯、そして、今回行う調査のポイントをご説明させていただければと思います。

まず、この調査に至るまでの経緯を、振り返らせていただきますと、平成27年度に子ども・子育て支援法が施行されまして、子ども・子育て支援の新制度がスタートしました。そこから支援事業計画もスタートし保育園の開設をしてきたというようなところでございます。

区の状況を振り返ってまいりますと、増大し続ける保育需要に対しまして、認可保育所を中心に、新しい保育所を造って、保育の量の確保に努めてきたというのがこれまでの流れというふうになっております。現在では、保育施設は51施設となっておりまして、保育需要に应运てきたというところでございます。

こうした中、令和3年度辺りからになりますけれども、人口動態に変化が見られ始めまして、これまで増えてきた就学前の人口、こちらが減り始めてまいりまして、保育所のにも空きが出始めているといった状況が見受けられてきており、現在でもその傾向は続いているというふうになっております。

こうした状況を受けまして、区でも、昨年度になりますけれども、子ども・子育て会議の皆さんにも意見を伺わせていただきまして、今年度以降の新規保育所の整備、こちらにつきましては、この8月に開園したまなびの森保育園神保町の整備までといたしまして、一旦、新しい整備は立ち止まりましょうというところで、区としても方針を固めたところでございます。

こうした保育所整備の方向性とか量の見込みを出します子ども・子育て支援事業計画につきましては、令和6年度が最終年となりまして、令和7年度からは第3期の新しい計画がスタートするという状況になってございます。

第3期の計画では、これまでやってきた保育所の数をとにかく増やしていくんだという方向から、保育の質、さらには、それを取り巻く保育環境の質の向上、こちらを目指す転換点にあるような大切な計画になるというふうに

考えているところでございます。こうした第3期の新しい計画をつくるための基礎的なデータを得るために、今回、この子育て世帯へのニーズ調査を行うというものでございます。

今回の調査のポイントでございますけれども、今、保育の質というようなこともお話をさせていただきましたけれども、実際にどのようなニーズがあるのかというのを、今回、確認するところが狙いの1つとしてございます。

保育の質を向上していくための内容というところで、前回子ども・子育て会議でもご議論を賜りまして、いろいろご意見を頂いた内容とか、今申し上げました社会の状況が変わっている点、こういった点を踏まえまして、新たに盛り込ませていただいた設問がでございます。

調査票をご覧ください。

まず、大きな追加・変更点の1点目でございますけれども、2ページ目の問9-1、こちらの設問がでございます。こちらが保育の質をどのように高めていくのというところを聞くための設問というところになってございます。ここでは、保育士さんの数でありますとか、また、保育士さんの質の向上、また、ハンデのあるお子さんの受入れでありますとか、夜間、土曜日、また、長期休暇中の保育、こういった具体的な設問を通しまして、傾向をつかんでいくというところでございます。

次に、追加・変更点の2点目でございます。7ページになりますけれども、問16-2をご覧くださいいただければと思います。

こちらは、現在、国でも検討しております、こども誰でも通園制度、について、ずばり聞く設問となっております。内容ですけれども、1つ前の設問で、区立保育園とか私立の認可保育園などを選ばなかった人に対して、こども誰でも通園制度について、どれぐらい利用したいか、に聞いているところでございます。

事前に吉田先生からもご意見を頂いております、保育所に通っていない、純粋な意味での未就園世帯の数も取れたほうがいいんじゃないかというようなことも頂いておりますので集計時には、こうした数も取り込むように、集計方法を工夫していきたいというふうに思っておるところでございます。

最後の追加点、3点目になりますけれども、10ページになります。問17-1というところを設けさせていただいております。

今回、幼稚園について、少し掘り下げて設問を設けておるところでございます。ここでは、どうしてもっと幼稚園を活用してもらえるのかというようなところから聞いている設問でございます、昨今、保育園だけでなく、幼稚園も空きが出てきているような状況が見受けられますので、ニーズを把握したいというふうに思っておるところでございます。

内容としては、前の質問で区立幼稚園を選ばなかった人、こういった方に

対して、どのようなサービスがあれば区立幼稚園を利用したいのかという内容でございます。

そのほかの設問につきましては、基本的には、前回の調査の掲載内容を、現在の状況に合うように更新をさせていただいております。

また、設問で選ぶ丸の数、これが、例えば、全部丸をつけるのか、3つなのか、2つなのかというところがございすけれども、基本的な考え方といたしましては、質問の内容から全てに丸をつけても、ニーズがはかれるような、そういった設問については、全てに丸をつけるというようにところにしておりまして、逆に、項目を絞らないと、ニーズが出てこないとか、我々のほうでさらに濃く傾向をつかみたいというところについては、絞って回答いただくようなスタイルにしております。、特に問9－1、今、冒頭で説明させていただきました保育の質に関わる大切な質問ということもありまして、特に、ここは傾向を、より強い傾向をつかみたいという我々の狙いもありますことから、選ぶ項目を限定して2つまでとしておるところでございます。

この調査につきましては、本日、この後、皆さんからご意見を頂戴しまして、修正を施しまして、来年1月下旬には発送したいというふうに考えておるところでございます。

アンケート調査の大きな変更・追加点についてのご説明は、以上になります。

大日向会長

はい。ありがとうございました。

それでは、ここから、委員の皆様からご意見、ご質問を頂戴したいと思います。事前に送られていますので、お目通しいただいているかと思しますので、順次、ご意見いただければと思います。

水野委員

はい。これ、過去にも何度か調査をしていると思うんですけども、回答率というのはどのぐらいになっているのか、教えていただきたいと思います。

子育て推進課長

はい。前回の回収率が約47%でございます

水野委員

はい。その47%というのは、上々と区では見ているのでしょうか。そのぐらい集まると、ニーズとしては、大体、把握できるという感覚でしょうか。

子育て推進課長

はい。多ければ多いほど確かにいいんですけども、この手の調査で、47%というのは非常に多いなという印象を持っておりまして、十分なデータになる数ではないかなというふうに認識しておるところでございます。

水野委員

ありがとうございます。

私、子どもが小さかった当事者であった頃には、何かニーズ調査とか、すごい一生懸命回答した記憶はあるんですけども、少し離れてしまうと、これ、結構大変だなというのが先に立ってしまって、今のお母さんたちはどんなものなのかなと思って、ちょっと質問させていただきました。ありがとう

子育て推進課長	ございました。 ありがとうございます。 本当に、ページ数も多く大変な調査でございますので、読むだけでも時間がかかる中で、これだけ前回の調査、書いてきていただけるというのは非常にありがたいことございまして、今回も多くのお返事を期待しているというところでございます。
松 本 委 員	はい。松本です。よろしくお願いします。 すみません。ちょっと今回、一番最初のページのところにもあったんですけども、オンラインでの回答というのもあるということで、よろしいんですか。
子育て推進課長	はい。ご指摘のとおりでございます。今回から、スマホなどを使って、今、考えているのはQRコードを付して、そこをかざして、回答できるようにしたいというふうに考えております。
松 本 委 員	これは、小学生用と未就学児と分かれていると思うんですけども、うちは、小学生も未就学児もいるので、どちらも回答対象ということになるということでしょうか。
子育て推進課長	はい。おっしゃるとおりでございます。
松 本 委 員	実際に、来年の1月頃に発送という話だったんですけども、実際の今回のニーズ調査が制度に反映されるのは、大体、いつぐらいというか、もう既に、例えば、子どもが大分上の学年のお子さんだと、反映される頃には小学生とか中学生とか、そういうこともあるかと思うんですけども、ちょっとその辺もう少し伺いできますでしょうか。
子育て推進課長	はい。ありがとうございます。 こちら、第3期の子ども・子育て支援事業計画の策定をするための基礎データを得るという目的のものでございますので、実際に、ご意見を頂いた内容がすぐに反映できるかどうかというところは、申し訳ないんですけども早くて令和7年度からというような状況になります。
松 本 委 員	はい、分かりました。ありがとうございます。
大日向会長	ほかはいかがでしょうか。
山 崎 委 員	このニーズ調査の結果の集計したまとめみたいなものは、区民の皆さんに報告というのはされるのでしょうか。
子育て推進課長	結果については報告書を作らせていただくので、ちょっとその情報をホームページ等々で出すかどうかというところについては検討させていただければと思うんですけども、委員の皆様にはご報告させていただく予定でございますので、区民の方への周知につきましては、検討をさせていただければと思っております。
山 崎 委 員	ありがとうございます。
大日向会長	ほかにご意見いかがでしょうか。ご質問でも結構ですが。

廣 木 委 員	はい。アンケートの文言のところで、ご提案させていただきたいんですけども、1つ目が13 ページの間 22 のところの、ここに、9 番の「千代田区社会福祉協議会が行う子育てサロン」とあるんですけども、ここに、実は、「社会福祉協議会やボランティア団体等が行う子育てサロン」ということで、地域住民の方たちがやっているサロンもありますので、その文言を追加させていただきたいというのが1点ございます。
子育て推進課長	はい、分かりました。
廣 木 委 員	次が14 ページになるんですけども
廣 木 委 員	問 23-2 の枠の下から2 番目のクの「病後児保育（ファミリー・サポート・センター）を利用した」とあるんですけども、ファミリー・サポート・センターのほうでは、病後児保育というような形では公にはあまりしておりません。児童がけがとか病気の回復期に臨時的に預かるということはしているんですけども、病後児保育というような表現はしていないので、その表現を少し検討していただけるとありがたいかなと思っております。
子育て推進課長	はい。ありがとうございます。 13 ページ、9 番の書きぶり、社会福祉協議会だけじゃないよというところと、14 ページの 23-2 のクのところですね、病後児保育の書きぶり、ここに工夫がということでございますので、ちょっと検討させていただきたいと思います。
山 崎 委 員	はい。お願いします。 小学生の保護者向けの調査票の13 ページの間 22 のところなんですけれども、その中の個票の9 の「「5.」「6.」以外の民間企業が独自に展開している放課後預かりサービス」というものの中には、児童福祉法で定められている放課後等デイサービスなどもここに含まれる感じでしょうか。
子育て推進課長	申し訳ございません。お調べをさせていただいて、時間内に分かればご回答させていただき、難しいようであれば、確認をさせていただいて、後ほど皆様にはお知らせをさせていただければと思います。少々お時間を賜れればと思います。
山 崎 委 員	はい。障害のあるお子さんなどが受給者証を使って利用される施設ということで、放課後の居場所としては種類としてあるのかなと思うので、そういうことが分かるような記述になっていてもいいかなと思いました。
子育て推進課長	分かりました。記載の方法、もし含まれていないようなところであったりとか、含まれているにしても、そこら辺が見えるような形で記載をするように、工夫をしてみたいなというふうに思っているところでございます。ありがとうございます。
吉田（啓）委員	すみません。児童・家庭支援センターの吉田です。 今の山崎委員のお話なんですけど、恐らく、この表現ですと、放課後等

デイサービスとかは入らないのかなと思っています。民間企業が独自に展開している放課後の預かりというところ、ここでいうと、学童クラブのような、ああいったサービスなのかなとは私は思っております。

もともと、放課後等デイサービスも、児童福祉法のほうに根拠があるサービスです。こちらの今回のアンケートのほうは、子ども・子育て支援法のほうが、どちらかといえば、根拠というんでしょうか、そこに基づくものと思いますので、そうすると、基本的には違うものなのかなと思っていますが、またそこは小阿瀬課長とも確認を後ほどできればと思っております。

以上です。

子育て推進課長

吉田所長、ありがとうございます。

この部分、勉強不足で申し訳ございません。お調べさせていただいて、吉田所長にもご相談させていただきながら、確認ができればと思っています。ありがとうございます。

廣木委員

はい。すみません。小学生の保護者向けのほうもお伝えしてもいいということなので併せてなんですけれども、先ほどと重なるところなんですけど、8ページにお子さんの地域子育て支援事業の利用状況について伺っている設問があるんですが、特に地域の居場所のことについての設問がないので、もしよければ、その辺りを追加してもいいんじゃないかなというふうに、1つ思いました。例えば、サロンだったり、居場所事業ですね。

もう一点が次の9ページ目にある、先ほどと同じように、病後児保育（ファミリー・サポート・センター）のところの言い回しを併せて検討いただけたらと思っております。

以上です。

子育て推進課長

廣木委員、ありがとうございます。昨年度の子ども・子育て会議でもご意見を賜っているところで、申し訳ございません。そうですね、そこを居場所のことでありますとか、ご指摘いただいたところの記載を工夫させていただきたいと思います。ありがとうございます。

松本委員

すみません。未就学児向けの調査票の10から11ページのところで、幼稚園の利用に関して特に確認したいというお話を先ほどおっしゃっていたかと思うんですけれども、今は、九段幼稚園だけ、すごく長時間保育を多分始めていると思うんですが、何か特に、これって、全然、千代田区のホームページに記載が全くないと思うので、ほかの幼稚園の利用者だとか保育園の方は全然ご存じないと思うんですが、例えば、九段幼稚園のような試みをしていますというようなことは、特に記載されたりということはしないんでしょうか。特に、なぜ九段幼稚園の取り組みみたいなものが全く九段幼稚園のホームページの中でしか公開されていないのかというのが少し気になっているんですけれども。というのは、やっぱり、私も、今は保育園に預けていますけれども、九段幼稚園のような6時半まで預かれるのであれば、幼稚園というのも1つ選択肢には入ってくるかなと思っていて、それが何かすごく閉じた広報体系になっているところがちょっと気になっているんですが、ちょっと、

子育て推進課長 その辺、伺いできますでしょうか。

子育て推進課長 ありがとうございます。

子育て推進課長 今回、試行でやらせていただいているというところが大きな理由かと思えます。そこはご了承を賜ればというふうに思っているところでございます。

松本委員 来年度以降も、九段幼稚園だけは続くのでしょうか。何かそこも、来年度の幼稚園の募集を見たんですけれども、特に何も記載がされていなくて、よく分からなかったところなんですけれども。でも、これが今後拡大するのか、その辺もまだ決まっていはいないのでしょうか。

子育て推進課長 はい。今年度は、試行でやらせていただいたというところもあるので、その結果を見てというところなのかもしれませんが、来年度については、今のところやるというところまでは至っていないところでございます。幼稚園のほうで、空きが出てきている状況というところで、今回、ニーズ調査のほうで、踏み込んだ設問をさせていただいているところでございまして、そこでもニーズを少し取らせていただいて、今後の幼稚園の施策というところに生かしていけたらなというところがございます。

松本委員 はい、分かりました。お茶の水小学校・幼稚園も新しくなって、それで、入園者が少ないというのはすごくもったいない状況だと思うので、ぜひ、もっと入園が増えるような取組みを続けていただければと思います。お願いします。

子育て推進課長 はい。ありがとうございます。我々もそう思っております。ありがとうございます。

嶋委員 このアンケートは、どのぐらいのときに区民の人に届いて、どのぐらいの期間を締切りというふうにお考えでいらっしゃるんですか。

子育て推進課長 はい。現状の予定ですと、1月下旬に発送いたしまして、約1か月間の集計期間を設けまして、おおよすけれども、3月末までにはおまとめしたいなというふうな流れで考えているところでございます。

嶋委員 はい。ありがとうございます。

子育て推進課長 特に、小さいお子さんを育てる方は、家庭環境とか、いろいろあるとは思いますが、このアンケートに必要な30分から40分というのが、多分、普通の人と考えていらっしゃるよりも、非常に捻出するのが大変で、貴重な時間になると思うので、そのことをちょっと意識というか、ちょっと考えていただければなと思っております。

子育て推進課長 ありがとうございます。本当にお時間のない中、ご苦労いただいて、恐らく労力を使っただいて、回答いただくものでございますので、感謝の気持ちを持ってやらせていただくというところはあるかと思います。

嶋委員 はい。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

大日向会長 はい。それでは、ほぼ皆様からご意見いただいたと考えてよろしゅうございましょうか。

（了 承）

大日向会長	はい。お声が特に上がらないということであれば、ここまで、たくさんのご意見を頂きまして、ありがとうございました。 要確認という点が1点のみあったかと思います。放課後デイサービスのことですね。そのほかは、ほぼ盛り込んでいただけたらというか、反映していただけたらご意見かと思いますが、そのように理解してよろしいですね、小阿瀬課長。
子育て推進課長	はい。ありがとうございます。いろいろご意見いただきまして、皆様のご意見をお受けして、このアンケート調査に盛り込んでいければというふうに考えているところでございます。
大日向会長	そうですね。可能な限り盛り込んでいただけたらということでございますので、その方向で区でご検討いただき、1月発送という段取りで進めていただければと思います。
子育て推進課長	はい、分かりました。ありがとうございます。
大日向会長	特段、皆様からご意見、ご質問がなければ、本日の議題、ここで一応終了とさせていただきますと思いますが、よろしゅうございますか。 (なし)
大日向会長	はい。ありがとうございます。 それでは、最後に、事務局から事務連絡をお願いいたします。
子育て推進課長	はい。それでは、事務局から事務連絡をさせていただきます。 ホームページでの議事録公開の件についてでございます。発言された内容を確認させていただくメールを後日お送りさせていただきたいと思いますので、お手数ではございますけれども、ご協力のほうをお願いいたします。
大日向会長	はい。ありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、令和5年度の第2回子ども・子育て会議を終了いたします。 年の瀬の本当にお忙しい中、本日はありがとうございました。皆様、どうぞ、お体に気をつけて、よいお年をお迎えくださいますように。ありがとうございました。
子育て推進課長	どうもありがとうございました。